



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二九八号〜

立夏りっか

五月六日

ホトトギスの初音

新しい元号、令和の年が始まりました。

元号の出典である『万葉集』が注目を集めています。令和は梅花の歌三十首の序文から取られました。が、当時花といえは梅で、梅の花がよく歌に詠まれていました。ならば、初夏の頃、何がよく詠まれていたのでしょうか。鳥のホトトギスです。しかも動物の中では最も多いといえます。これは万葉集の編者と考えられている大伴家持おおとものかもちがホトトギスを大変好んだのが理由の一つで、家持は六十四首ものホトトギスの歌を詠んでいるほど。

ホトトギスは、カッコウ科の鳥で、全長三十センチ足らずで、白い腹にポーターシャツのような黒い横縞が特徴。山林を住処にしています。「てっぺんかけたか」「ほっちゃんかけたか」などと聞こえる鳴き声で知られ、昼夜ともに鳴くのは繁殖期のオスの囀りです。

万葉集では、初音はつねを待つ、鳴く様子、花を散らす、五月の景物としてホトトギスを詠んでいます。が、ウグイスと同じく、初めて鳴く「初音」を待つ鳥であったようです。

この鳥名を用いた俳句雑誌『ホトトギス』を立ち上げた正岡子規まさおかしきは、こんな句をしたためています。

山々は萌黄もえぎ浅黄あさぎやほととぎす 子規

まさに内宮前は、さまざまな色の若葉に彩られる山々を望めます。今年は、ホトトギスの初音で、新元号を寿ぎたいものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 風の市

春から夏へ移り変わる頃、時折吹く風に青葉の匂いを感じます。

伊勢神宮では、風の神様に五穀豊穡をお祈りする「風日祈祭」^{かざひのみさい}が5月14日に執り行われます。これに合わせ、おかげ横丁では、伊勢の爽やかな風を感じていただく「風の市」を開催いたします。

と き／5月11日(土)～19日(日) 10:00～17:30

ところ／おかげ横丁一帯

● 風鈴の市

種類さまざまな風鈴を展示販売いたします。心地よい伊勢の風を楽しみながらお気に入りを見つけてください。

ところ／赤福別店舗側特設屋台

● 手作り教室 ※平日16:30、休日17:00まで受付

風にちなんだ手作り教室です。

ところ／おかげ横丁内「特設会場」

参加費／風車作り 500円、うちわの絵付け 500円、
風鈴の絵付け 1,200円

五十鈴塾

○ 風日祈祭と宇治周辺のお宮めぐり

伊勢神宮の別宮の「風日祈宮」^{かざひのみみや}は簡単に言えば風を司る神さま、外宮の「風の宮」と同じです。5月14日と8月4日には風日祈祭^{かざひのみさい}があります。小さな笠と蓑を供えて、風雨の災害がなく五穀が豊かに実りますようにと祈るお祭りです。朝少々早いのですが、参拝して豊作をお願いしましょう。ご正宮にお参りしてから、館町に通じる道を行き、山口祭齋場、神馬休憩所^{うじょうだ}を見てから、昼食を取り、五十鈴川沿い^{うじょうだ}に下って、宇治山田神社のお参りします。ここから月讀宮へはまっすぐに道が通っています。新緑の美しい四つのお宮にお参りします。

と き／5月14日(火) 8:30～14:00

講師／佐野 実(伊勢の語り部)

参加費／一般3,100円 会員2,600円(昼食代・保険料含む)

集合／8:30に宇治橋前集合

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほとりに咲くヒトツバタゴの木。別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストがみごとです。白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。

じんぐう ばら
神宮の薔薇

神宮会館が建つ丘は、かつて山荘のあった場所で、一帯が如雪園と呼ばれるのはその名残りとのこと。葛寒天を花びらにし、白餡の中に包んだ薔薇の優美な姿をどうぞお楽しみください。

ナ
菓つばめ

黄色いくちばしを広げ、親ツバメの帰りを待つ赤ちゃんツバメ。そんな光景をお菓子で表現いたしました。菓は道明寺と黒糖羊羹。可愛いくちばしはレモンです。